

令和元年度

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 事業報告

1 法人について

新型コロナウイルスによる感染拡大は昨年「中国で原因不明のウイルス性肺炎」として最初の症例が確認されて以降、瞬く間にパンデミックに発展した。歴史を振り返っても完全に制圧されたウイルスはそれほど多くないことから、21世紀となった現在でも、人類は常に感染症と無関係で存在することはできない。

今回のコロナウイルスは細部が解明されていない未知のウイルスであることや、感染拡大のスピードが速く、全世界に深刻な影響をもたらすなど、人類は大きな混乱をきたしている。しかし、過去の感染症を振り返ることで学べることも多く、医療医学が発達し、各種の治療法が提案されている現状においては、早晩に有効な対応策が明示されることを期待する。

社会福祉施設等では、新型コロナウイルスに感染すると重症化リスクが高いといわれている高齢者や、基礎疾患を有する方が多く利用されており、施設内で感染者が発生すると重大な事態を引き起こす恐れがある。児童や高齢者等が集団で日々の生活を過ごす福祉施設においては、感染症に対して出来得る限りの情報収集と正しい知識をもった上で、適切な予防策を講じていくことが私たちの責務であると理解している。

一方、経済的側面から見た場合、たとえ新型コロナウイルスが終息しても、国家の財政悪化や企業の経営破綻に伴う失業の長期化で格差が広がることになれば、社会の分断が急激に広がりがねない危うさを抱えている。そういう意味では福祉事業も市場経済と切り離して存在することはできないことから、経営運営面においても一層気を引き締めて取り組んでいかなければならない。

(1) 人材育成と確保

施設種別と雇用形態別職員数

※ 期間を限定して採用した短期間雇用者は含まない

施設種別	正規職員	嘱託職員	臨時職員	合計
保育施設	152名	12名	119名	283名
学童施設	4名	2名	58名	64名
高齢・障害等介護施設	95名	15名	35名	145名
その他施設	4名	6名	2名	12名
合計	255名	35名	214名	504名

年度内採用者数	
正規職員	21名
非正規職員	47名
合計	68名

年度内退職者数	
正規職員	27名
非正規職員	50名
合計	77名

平均勤続年数	
男性	9.1年
女性	10.1年
合計	9.8年

障害者雇用数	
身体障害	7名
知的障害	2名
合計	9名

福祉職希望者の減少と離職者の増加など人材確保を取り巻く環境は、年々厳しい状況である。特に、保育職の確保については、ここ数年厳しい状況に変わりはないが、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）や協会内職員の人的資源を有効活用するなど、考えられる様々な方策を駆使しながら人材確保に努めた。

(2) 働き方改革への対応と職場環境づくり

平成 31 年(2019)4 月より働き方改革関連法案の一部が施行されたことで、同法案が社会的にも大きな影響を与える経営課題であるとして社会に周知された。法人内各施設とも有給休暇取得の促進が義務付けられ、その達成を目指し業務改善にも同時に着手した。今後さらに安定した取得を進めることで、職員にとっては働きやすい職場となり、離職者の減少と求人採用に大きなメリットとなることを期待している。

あわせて、今年度は社会保険労務士の助言を得て、就業規則の大幅な改正と「同一労働同一賃金」など次年度の改正に向けての準備に取り掛かっている。加えて、例年通り臨床心理士による「心の健康相談室」も月 2 回のペースで開設し、職員が受けるストレスの予防や軽減のための取り組みとともに、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを行ない、それぞれの職場環境の改善に活かすことができた。

(3) 外国人技能実習生受入と現状

外国人技能実習関連法案が成立し、平成 29 年(2017)から実習生の受け入れを準備していたが令和元年(2019)秋に漸く条件が整い、予てより面接を済ませ入国を予定していた実習生 2 名がベトナムより日本に入国した。国内での研修の後、令和元年(2019)10 月より第二梨ノ木園で介護実習生として勤務することになった。2 名の実習生はベトナムにおいて日本語検定 3 級を取得していたことで、今後は同検定試験の 2 級合格を目指して現在奮闘している。日本での生活にはある程度順応しており、利用者介護の現場においても日常会話には不便なく業務をこなしている。技能実習生の受け入れは、人材確保に悩む介護現場の将来に大きな望みになることを期待している。

(4) 虐待防止への取り組み

虐待防止を考える委員会を中心として、法人内の各施設における虐待や身体拘束の防止、早期発見や対応やセルフチェックの見直しを進めることで職員の意識変革を促した。また、職種を越えた職員間による座談会を計 4 回開催し約 250 名の職員が参加、虐待防止研修会を計 2 回開催し約 130 名の職員が参加したことで、協会職員全体としての虐待意識のレベル向上を図った。

(5) 情報公開と情報発信

本年度は、放課後等デイサービス事業所ヴェルデ ドゥ及び身体障害者支援施設梨丘園の両施設が第三者評価の受審を受けた。また、例年通り財務諸表の完全公開も進めた。

(6) 公益的事業

地域の高齢者を対象とした「買い物バス運行事業」は、引き続き定期運行を実施し、高齢者の日常生活の一手段となっている。また、梨ノ木診療所で実施している長田地区住民を対象とした「なしのき健康講座」も、引き続き毎週月曜日に開催した。各保育園では、自主事業として子育て支援事業を実施し、未就園児の遊び場の提供や、保護者の子育てに関する悩みなど様々な相談を受けている。更に、伊賀市社会福祉法人連絡会に参画し、伊賀市全域における公益的な活動にも貢献した。

(7) みどり第二保育園の改築工事の着工

みどり第二保育園の園舎改築工事は、同工事が完了するまで使用する仮園舎の改修工事も含めて令和元年度(2019)及び令和 2 年度(2020)にわたる 2 か年事業として工事に着手した。

新園舎の概要： 鉄骨造り 2階建 敷地面積 1974.52㎡ 延床面積 1145.5㎡
 仮園舎の概要： 所在地 伊賀市長田 2312-1 (旧.長田小学校)
 鉄筋コンクリート造り 4階建の内、1,2階を使用
 工事完了予定： 令和3年(2021)1月
 工事業者名： 上野ハウス株式会社
 工事契約金額： 341,220,000円 (税込み)

(8) 理事会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和元年6月7日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に係る事業報告について 平成30年度に係る計算書類及び財産目録について 苦情解決制度に係わる第三者委員の選任について 評議員選任・解任委員の選任について 新理事、監事候補者の推薦について 会計監査人の継続と報酬について 定時評議員会の招集について
第2回	6月21日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 理事長及び常務理事の選定について
第3回	令和2年1月29日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度補正予算(第1号)について 諸規程の変更について みどり第二保育園改築工事請負契約の締結について 基本財産の処分について 認可定員の変更について
第4回	3月18日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 予野保育園を花之木保育園の分園にすることについて 令和2年度事業目標について 令和2年度予算について 主要人事について

(9) 評議員会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和元年6月21日	13名	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に係る計算書類及び財産目録について 理事、監事及び会計監査人の選任について みどり第二保育園改築工事に伴う、既存園舎の解体について

(10) 監事業務

開催日	出席者数	内 容
令和元年6月4日	3名	事業監査、会計監査
10月18日	3名	会計監査人との意見交換会
令和2年1月21日	1名	みどり第二保育園改築事業入札及び開札の立会い
その他		全ての理事会及び評議員会に出席

(11) 法人内研修

月 日	研 修 テ ー マ	講 師
令和元年 7月12日	令和元年度 新任職員研修会	
令和元年 10月16日	視覚障害者の現状と課題等について学びを深める研修 <i>全ての人が情報を共有できる社会の実現を目指して 視覚障害者情報提供事業の歩みと到達点</i>	日本ライトハウス情報文化センター 館長 竹下 亘 氏
令和元年 11月19日 11月28日	虐待を考える委員会による職員座談会 計4回開催	
令和2年 2月3日 2月12日	虐待を考える委員会による 虐待の基礎知識と防止への取り組みについての職員研修会	
令和2年 2月27日	人権研修(ハラスメント防止対策研修会)	公益財団法人 反差別・人権研究所 みえ 事務局次長 本江 優子 氏

2 児童福祉施設について

(1) 保育園委託児童数

	0歳児			1歳児			2歳児			3歳児			4歳児			5歳児			合計		
	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計
曙	21	76	97	48	190	238	74	247	321	124	274	398	88	410	498	39	441	480	394	1638	2032
睦	1	34	35	25	70	95	48	96	144	82	170	252	113	170	283	83	114	197	352	654	1006
三田	40	11	51	27	25	52	25	53	78	62	82	144	137	103	240	38	60	98	329	334	663
中瀬城東	5	78	83	35	144	179	22	174	196	102	169	271	107	222	329	142	162	304	413	949	1362
友生	4	15	19	60	92	92	24	55	79	60	120	180	62	22	84	70	84	154	252	356	608
花之木	0	23	23	3	42	45	12	73	85	47	85	132	57	87	144	43	101	144	162	411	573
予野	0	0	0	12	36	48	0	20	20	24	0	24	0	12	12	24	24	48	68	84	152
長田	0	0	0	15	17	32	0	36	36	33	63	96	18	54	72	30	18	48	126	158	284
古山	4	2	6	0	24	24	0	24	24	12	12	24	14	22	36	24	24	48	54	108	162
みどり	23	61	84	0	202	202	40	290	330	142	324	466	135	301	436	82	347	429	422	1525	1947
ひかり	12	43	55	30	80	110	13	155	168	65	178	243	123	189	312	60	276	336	303	921	1224
みどり第二	10	21	31	13	131	144	28	184	212	93	179	272	105	177	282	87	225	312	336	917	1253
府中	28	62	90	48	105	153	101	186	287	155	181	336	149	211	282	208	146	354	689	891	1580
ゆめが丘	3	72	75	27	204	231	18	239	257	137	319	456	75	273	348	114	381	496	374	1488	1862
合計	151	498	649	315	1330	1645	425	1812	2237	1144	2150	3294	1195	2241	3436	1044	2503	3447	4274	10434	14708
月平均	13	42	54	26	111	137	35	151	186	95	179	275	100	187	286	87	200	287	356	870	1226
摘要	充足率 82.8%																				

(2) 保育事業充実のための諸活動

子どもたちの心身の発達と成長がより豊かで調和のとれたものになるよう、養護と教育を一体にした安心安全な発達環境づくりを進め、乳幼児の成長発達を保障する保育内容の充実を図った。更に、保護者の子育てと就労の両立支援のため、低年齢児保育推進事業・延長保育事業・家庭支援推進保育事業・障害児保育事業・地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業・休日保育事業・放課後児童健全育成事業等々に取り組み、様々な保育サービスを実施し、子育て家庭に対する支援対策を一層強力に推進するよう努めた。

ア 一時預かり・休日保育事業

保護者の育児に対する心理的・身体的負担の軽減や、外国籍の児童の受け入れ及び保護者の休日就労等の支援を積極的に進めた。

【一時預かり事業】

園名	年間利用人数	園名	年間利用人数
曙保育園“ピッコロ”	530名	みどり第二保育園“きらら”	497名
花之木保育園	96名	古山保育園	70名
長田保育園	151名	三田保育園	123名
友生保育園	45名	府中保育園	414名
予野保育園	173名		

【休日保育事業】

園名	開設日数	年間利用人数
曙保育園“ハミング”	72日	718名

イ 延長保育事業

曙保育園・睦保育園・中瀬城東保育園・みどり保育園・ひかり保育園・みどり第二保育園・府中保育園・ゆめが丘保育園の8保育園において実施し、保護者の就労と子育て支援の強化を推進した。

ウ 地域子育て支援拠点事業

支援センター名	開設日数	登録世帯数	年間利用人数
地域子育て支援センター“すくすくらんど”	215日	168世帯	1,866名

他の13保育園においても自主事業としてミニ子育て支援事業を実施し、地域の子育て支援に取り組んでいる。職員は、保護者支援、相談援助や児童虐待に関する研修会等々に参加し、当面する子育て相談や虐待防止への対応等に努めた。

3月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すくすくひろば等を中止とした。

エ 障害児保育事業

心身障害児療育保育施設かしのみ園では、伊賀市子ども発達支援センターとの連携を密にすると共に、医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関による指導・援助を受けながら、個別的・集中的療育と、交流保育・統合保育との有機的連携を基本とする当協会独自の療育保育を一層充実させるよう努めた。また、職員の療育保育の知識や技術の向上を目的とした研究会・勉強会を開催し、特に発達障害の子どもの特性を把握し、一人ひとりが自己を十分に発揮できるような援助方法について学び実践できるように努めた。更に保護者を対象とする「ふれあい教室」の講演会、輪読会、レクリエーション等の事業内容の充実を図った。また、卒園児保護者、学生、民生児童委員等のボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流を促進したほか、“ふれあいらんど”では、発達について気になる子、子育てに悩んでいる保護者等への相談や指導・援助を行なった。

【ふれあいランド】

登録者数	16名	1回平均利用者数	3名
------	-----	----------	----

オ 障害児通所支援事業

【ヴェルデ】

小学生を対象に実施している障害児日中一時支援事業所“ヴェルデ”は、障害児の日中における活動の場を確保し、保護者の就労支援及び子育ての負担軽減を図った。

登録児童数	49名(1～6年生)	1日平均利用児数	11名
-------	------------	----------	-----

【ヴェルデ ドゥ】

放課後等デイサービス事業所“ヴェルデ ドゥ”は、放課後において障害児が、日常生活における基本的動作及び集団行動に適應できるよう、また、生活能力を向上させ社会との交流が図れるように一人ひとりの成長発達に合わせた支援及び訓練を行なった。

登録児童数	40名(1～6年生)	1日平均利用児数	6名
-------	------------	----------	----

カ 放課後児童健全育成事業

保護者が昼間就労等により家庭にいない小学校児童の放課後における生活の場を提供し、児童の健全な育成支援に努めた。“風の丘”“第2風の丘”では、通常利用時、午後7時まで開所時間を延長し、“キッズうえの”では、長期休暇中は午前7時30分から開所し、また、土曜日利用の受け入れも行ない、そのニーズに応えた。更に全ての児童クラブで、長期休暇中には10時間開所を実施し、また、校区外の利用も受け入れ、地域のニーズにきめ細かく応えるように努めた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための小学校休校(3月2日～24日)に伴い、原則、児童は自宅待機となり、可能な限り家庭保育に協力をお願いしたが、どうしても家庭保育ができない児童については、各施設で一日開所とし、感染予防に十分配慮しながら、受け入れた。

“成和西”は、地域の働きかけのおかげで、令和2年4月より、旧JA花之木ふれあい店の2階へ移転することになった。延床面積が約5倍に広がり、保護者用駐車場も確保できるなど、環境改善が図られる見込みである。

登録児童数	524名(年間利用・長期利用 443名、一時利用 81名)
-------	-------------------------------

<1日平均利用人数>

所轄施設	施設名	人数	所轄施設	施設名	人数
曙保育園	キッズうえの	32名	みどり第二保育園	フレンズうえの	32名
	ふたば	47名		第2フレンズうえの	41名
花之木保育園	成和西	13名	ゆめが丘保育園	風の丘	46名
古山保育園	成和東	22名		第2風の丘	33名
府中保育園	ウイングうえの	31名	計		297名

キ からだそだて事業

平成27年度(2015)から伊賀市内の全保育所(園)で実施し、5年が経過した。継続して実施することで、少しずつではあるが、“体を動かす習慣が身に付く”“活動に対する意欲や楽しさが増してくる”等、成果が見られてきたと考える。子どもたちの発達の特性に応じた遊び、多様な動きが経験できるような遊びを全保育園で情報共有し検討しながら、生涯にわたって心身共に健康的に生きるための基盤を培う保育を今後も継続して実践していく。

ク 食育の推進

1日の生活時間の大半を過ごす保育園における食育の推進はきわめて大切である。そこで、各園では、食育計画を作成し、生活や遊びの中で、職員や家族等身近な大人からの援助を受

けながら、また、仲間と関わりながら、栽培活動やクッキング等を行なった。そして、これらの体験を通して、食への関心を育み「食を営む力」の基礎を培う食育を実践した。

ケ 世代間交流事業

世代間の交流を深めると共に、様々な体験を楽しむことができた。

- ・老人ホーム訪問、地域のお年寄りとの菜園活動、クッキング、伝承遊び等
- ・伊賀白鳳高校の異年齢児交流事業「花植え体験」「サツマイモ栽培、芋ほり体験」他

コ 第34回子どもフェスティバル

当協会の保育園や児童クラブの活動内容を保護者や地域の人々に、更に理解していただく機会とするため、毎年14保育園と児童クラブ9施設合同で、県立ゆめドームうえのにおいて開催している。

<本年度のテーマ> 『からだをつかって あそぼうよ』

<内容>

- ・「森・海・テーマパーク」の3ブースで運動遊びを楽しむ
- ・3、4、5歳児の絵画展示(845点)
- ・保育士による音楽劇「金のがちょう」
- ・児童クラブコーナー
- ・その他(保健、食育、赤ちゃん、絵本、折り紙、伝承遊びコーナー)

<来場者数> 2,173名

参加した子どもたちは、年齢に応じてあそびを楽しみ、また、保護者は子どもの成長を確かめ子どもへの理解が深まった。

サ 読書活動支援事業

子どもにとって、生きる力を身につけていくうえで欠くことのできない読書活動を、曙保育園の本とおもちゃルーム“ぐるんぱ”が中心となり推進した。絵本ボランティアグループ“もこもこ”による読み聞かせ活動は年間137回実施した。

シ 安全対策の充実

- ・全国各地で頻発する直下型地震や、近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震、異常気象による自然災害等に対応するため、また、各施設の地域・地形等により起こりうる災害に対応できるよう、非常災害対策計画、防災計画、施設危機管理マニュアル、備蓄品等の見直しを行ない、児童の生命の安全を最優先とする安全防災体制の一層の充実を図った。
- ・不審者の侵入等から子どもの安全を守るため、防犯訓練を継続して実施した。
- ・遊具の安全確保については、専門技術者による点検(年1回)を依頼した。日常点検は、全職員が確実に実施できるようにした。
- ・安心安全な食事の提供、食物アレルギー児への対応、食中毒やインフルエンザ等感染症、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、関係機関と連携の上、安全対策について慎重に対応し、あらゆる子どもの健康管理の一層の充実を図った。

ス 業務効率化推進事業

平成28年度(2016)より保育支援システムを導入し、保育士の業務負担軽減を目指して、書類作成業務についてのICT化を進めている。保育支援システムを活用することでの指導計画や園児台帳の作成等における成果や課題を検証しながら、膨大な事務作業を効率化していく。

<導入施設> 曙保育園、中瀬城東保育園、みどり保育園、府中保育園、ゆめが丘保育園

(3) 職員の研修状況

保育園研修組織では、子どもへの視点を中心におき、保育の質と力量を磨き、自ら考え、保

育に資することのできる幅広い知識と教養を身につけられるよう資質向上に努めた。併せて法人内研修、虐待防止を考える研修等に参加し、広く社会経済情勢にも視野を広げ、当協会にふさわしい内部研修体制を積極的・能動的に機能させ、職員の人材育成に努めた。

ア 職員の研修体制及び各種委員会

- ・ 保育園長会 ・ リーダー研修会 ・ 新任研修会 ・ 人権同和保育研究会
- ・ 障害児療育保育研究会 ・ 保健衛生感染症対策研究会
- ・ 施設安全推進委員会 ・ 子どもフェスティバル推進委員会

イ 研修組織わかば会

全保育関係職員を対象とした研修組織わかば会では、“子どもにとっての最善の利益を実現する”という原点に立って研鑽を積んだ。子どもたちの発達を保障し、主体性を育む保育をめざして、「子どもが主体的にあそびを選び、遊びこむことができる環境」について検討した。その一つとして毎年開催している法人内の公開保育は、友生保育園、みどり保育園、ゆめが丘保育園の3園をモデル園として開催することとし、3園が中心となって見直しに取り組んだ。この取り組みの経過を多くの職員に公開・伝達し、学び合い検討した。また給食部会では、子どもの健やかな成長のため、安心・安全な食事の提供に努めた。特に離乳食や食物アレルギー等に関しては、子どもの発達特性を知り、一人ひとりに応じて個別対応ができるよう、知識や技術を身に付けた。また、食中毒防止のための衛生管理の知識や調理業務におけるヒヤリハット事例に学び、日常業務に活かすようにした。食育にも積極的に取り組み、日本の食文化の継承について関心が高まるよう、保護者への啓発にも努めた。

ウ 職員の資質向上のための研修会参加内容

研 修 会 名	開催月日	参加人数
上野商工会議所 新規就職者セミナー	4月16日	4名
三重県保育士協会研修会	4月29日 他3件	45名
三重県保育協議会 三重県保育総合研修会	5月19日	8名
三重県私立保育連盟 特別研修会	5月29日	8名
全体的な計画・指導計画研修会	6月1日	11名
三重県社会福祉協議会 キャリアパス対応生涯研修課程「チームリーダーコース」他	6月6日 他2件	3名
上野同和教育研究協議会 研修会	6月7日 他4件	127名
全国私立保育園研究大会熊本大会	6月11日～13日	4名
三重県人権教育研究協議会 2019年度人権保育専門講座	6月11日 他6回	12名
上野同和教育研究協議会研修会 就学前部会研修会(年4回)	6月17日 他3回	16名
伊賀市解放保育研究協議会 研修会(講演会、語ろう会)	6月22日 他3件	150名
伊賀市保育所(園)連絡協議会 研修会(年3回)	6月26日 他2回	15名
伊賀市放課後児童クラブ指導員人権研修会	6月26日	31名
三重県保育士協会 伊賀ブロック研修会	6月29日	16名
三重県人権教育研究協議会 豊かな就学前人権教育実践交流会	7月13日	7名
三重県保育士キャリアアップ研修 幼児保育、乳児保育、保護者支援・子育て支援他	7月13日・14日 他6件	48名
伊賀市保幼小連携についての研修会	7月29日	15名
みえ福祉第三者評価自己評価リーダー研修会	8月5日	1名
全国人権・同和教育研究大会・三重レポート交流会	8月25日	20名

調理関係研修 給食施設従事者研修会他	8月27日 他2回	18名
障害児保育・障害者支援関係研修 三重県小児保健学会他	9月2日 他10件	16名
三重県人権教育研究協議会 所長(園長)研修会	9月3日	10名
令和元年度放課後児童支援員認定資格研修(4回連続)	10月6日 他3回	3名
三重県社会福祉協議会 公開保育	11月6日	1名
第42回全国人権保育研究集会	11月9日・10日	1名
第71回全国人権・同和教育研究大会	11月30日・12月1日	26名
人権を考える市民の集い	12月8日	19名
普通救命講習会	1月15日 他1回	30名
厚生労働省 令和元年度初任保育所長等研修会	1月27日～29日	2名
県社協 保育所管理者・経営者職場環境改善研修会	1月30日	12名
全社協 人事労務管理講座	1月30日・31日	1名
伊賀市保育所(園)事故防止研修会	2月6日	33名
伊賀市 発達に関する保育士研修会	2月20日 他1回	30名
その他	17件	48名
計	96件	791名

(4) 職場実習研修の受け入れ状況

中学生・高校生らが自らの将来や進路を考えるための福祉体験やインターンシップ事業、更には伊賀白鳳高校が実施している伊賀版デュアルシステム(高校生が長期間にわたり企業での実地訓練<OJT>を行ない、教育と職業訓練を同時に実施する体制)の受け入れ等を行なった。更に、保育士を目指す大学生のための保育実習、その他小児看護学実習等を積極的に受け入れた。

【職場実習研修受け入れ状況】

中学生職場体験	153名	高校生インターンシップ	69名
伊賀版デュアルシステム	96名	大学生保育実習	210名
小児看護学実習	180名	計	708名

3 高齢者施設について

地域における老人福祉の中核としての役割を担っている当高齢者関係施設は、支援を必要としている方々の生活の質の維持・向上と、ご家族の日常生活の安定を支えるための事業を、本年度も継続して実施することができた。

(1) サービス利用状況

盲養護老人ホームは、死亡等による退所が14名に対して新規入所が4名で、3月末の在園者は60名となった。同行援護などの多様なサービスが充実し、視覚障害者が社会で生活しやすくなったことにより、入所希望者が減少していること等が要因と考えられ、令和2年度から定員を60名に変更する。

特別養護老人ホームの稼働状況は、長期入院者の増加により年間平均94.6%と、昨年比1.6%の減少となった。ショートステイ事業は虐待ケースの積極的な受け入れ等により、稼働率は88.3%で4.3%増加した。

デイサービスセンターは、総合事業を含めた1日平均利用者数が18.8名で、昨年度より2.5名減少した。介護者世代の高齢化や独居高齢者の増加が著しく、長期間や週末の短期入所利用

等、介護サービス利用ニーズの変化や、長期入院者の増加が要因と考えられる。

在宅介護支援センターでは、年間 82 名のご利用者との契約し、ケアプランの作成と相談業務を行なった。また、地域で介護予防教室を開催し、在宅生活の支援を行なった。

(2) 感染症対策

あらゆる感染源を施設内に持ち込まないことを徹底し、職員の健康管理や行動制限、面会の禁止等、感染症流行の兆しを早期に捉えて迅速に対応した。今冬のインフルエンザ罹患者はいなかった。

(3) 施設の安全管理

共同防火管理協議会は、災害発生時の人命保護並びに被害の軽減・防止のための検討会議を毎月開催し、災害時の事業継続計画やライフライン設備の確認等を行なった。また、外部からの侵入者による凄惨な事件を教訓に、不審者対応訓練を取り入れた。

(4) 施設の運営

激しく変動する社会情勢下において、高齢者施設経営は年々厳しい状況になってきている。職員採用が困難である中、介護職員を確保し、利用者が健康で文化的な暮らしができるよう、生活環境の整備充実にも努め、良質な福祉サービスを提供することができた。しかし、大幅な減収となった事業もあり、福祉行政の動きや利用者ニーズの分析等、安定経営を継続していく上で、課題を残す年度となった。

< 盲養護老人ホーム 梨ノ木園 >

(1) 利用者の状況

ア 入退所者数

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

区分	利用者数	入所者数	退所者数
人数	60 名	4 名	14 名

イ 年齢構成

以上 未満	65 歳 70 歳	70 歳 75 歳	75 歳 80 歳	80 歳 85 歳	85 歳 90 歳	90 歳 計	平均 年齢
男	0	1	4	7	4	1	21 名 79.3 歳
女	0	2	3	5	9	7	13 39 名 84.9 歳
計	0	3	7	12	13	11	14 60 名 82.9 歳

ウ 視覚に障害のある利用者数

身障手帳による等級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	なし	計
利用者数	40	9	3	2	3	3	60 名

(2) 介護サービス利用者数

訪問介護利用者 10 名

(3) 施設整備の改善

- ・利用者の安全と職員の介護負担軽減のため、見守りケアシステムベッド 5 台を購入
- ・感染症対策として、持ち運びが可能な電動消毒液噴霧器を購入
- ・音声操作が可能な壁掛 65 型テレビを購入

(4) 施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・ ボランティアと協働し、次の各クラブ事業等を実施
詩吟・俳句・民謡・生花・書道等各クラブの指導
上野点字図書館朗読ボランティアによる読書会
語り部塾生による民話語りの会
- ・ 福祉教育への協力と人材確保に向けた実習受け入れ及び地域交流の促進

(交流事業)

実 施 内 容	実施月日	人 員
黒住教上野中教会草引き奉仕	5 月 19 日	20 名来園
岡波看護専門学校 3 年生の施設実習	6 月 3 日 ～6 月 7 日 5 日間	7 名実習
岡波看護専門学校 3 年生の施設実習	6 月 10 日 ～6 月 14 日 5 日間	9 名実習
神戸市長田区民生委員とボランティア団体施設見学	6 月 6 日	35 名来園
愛知淑徳大学 卒業研究訪問	6 月 24 日	1 名来園
曙保育園児との交流会	7 月 16 日	40 名来園
長田保育園児との交流会	7 月 17 日	10 名来園
個人ボランティア受け入れ	8 月 26 日	1 名来園
伊賀市上野仏教会の方々による盂蘭盆法要	8 月 30 日	8 名来園
長田小学校運動会	9 月 28 日	4 名参加
三田コーラスグループ	10 月 13 日	13 名来園
長田小学校 4 年生と交流会	10 月 18 日	10 名来園
音楽療法セッション見学受け入れ	10 月 23 日	13 名来園
シルバー人材センターの方々による窓拭き奉仕	10 月 27 日	5 名来園
長田小学校 1,2 年生との交流会	11 月 8 日	19 名来園
よっといでまつりへの作品展示 (俳句、書道)	11 月 17 日	10 名参加
伊賀市更生保護女性の会による窓拭き奉仕	12 月 7 日	18 名来園
個人ボランティア受け入れ	1 月 2 日～ 1 月 3 日 2 日間	1 名来園
計	18 件	224 名

(5) 職員の資質向上

老人福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修会のほか、梨ノ木職員研修会や施設外の研修会に積極的に参加した。

(梨ノ木職員研修)

研 修 テ ー マ	開 催 月 日
新任職員研修	4 月 17 日
「応急手当講習」	6 月 17 日、6 月 24 日

「非常災害計画とBCPについて」 「外国人技能実習制度について」	9月27日
復命研修 「安全運転講習」	12月20日
各施設の取組発表 (梨ノ木園) サウンドテーブルテニスの導入について (第二梨ノ木園) 「入浴ケア」の第一歩 ～入浴方法の見直し～ (梨丘園) 集団視点から個人視点へ ～自分らしく生きる～ (デイなしのき) 足踏み体操(生活リハビリ) ～365歩+55歩のマーチ～	新型コロナウイルス感染予防のため、DVDを作成し、各施設で視聴する。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
上野商工会議所 新規学卒就職者激励会&セミナー	4月16日	2名
内田洋行 ITソリューションズ 介護現場の働き方改革支援セミナー	4月25日	2名
全盲老連 平成31年度福祉講演会並びに総会及び施設長研修会	6月5日～6日	1名
三老施協 経営戦略トップセミナー	6月15日	2名
三重県 介護サービス事業者等集団指導	6月18日	2名
全盲老連 新任ケアワーカー研修会	6月25日～28日	1名
三重県社協 コミュニケーション～指導の仕方・指導の受け方～	7月2日	1名
全老施協 令和元年度東海北陸ブロック老人福祉施設 研究大会(福井大会)	7月18日～19日	2名
伊賀市社会福祉法人連絡会 福祉防災計画(BCP)策定研修会	7月19日他1日	1名
三老施協 特養部会研修会	9月10日	1名
いが移動送迎連絡会 運転協力者ステップアップ講習会	10月5日	1名
三重県 介護認定審査会委員現任者研修会	11月9日	1名
全老施協 第76回全国老人福祉施設大会(茨城大会)	11月20日～21日	1名
伊賀老施協 施設長会及び21世紀委員会合同研修会	12月10日	3名
三重県社協 令和元年度三重県介護支援専門員実務研修会	12月24日他18日	1名
伊賀市地域包括支援センター 高齢者虐待防止研修会	1月31日	1名
全老施協 令和元年度トップセミナー	2月3日	1名
三老施協 21世紀委員会及び勉強会	2月14日	1名
維雅幸育会 施設外就労「M.I.Eモデル」フォーラム	2月16日	1名
三重県社会福祉法人経営青年会 宿泊学習会	2月18日～19日	1名
計	20件	27名

<特別養護老人ホーム第二梨ノ木園>

(1)利用者の状況

ア 入所利用者数

年間利用者数	1日平均利用者数	稼働率	平均介護度
17,328名	47.3名	94.6%	4.08

イ 年齢構成

以上 未満	65歳 未満	65歳 ～ 70歳	70歳 ～ 75歳	75歳 ～ 80歳	80歳 ～ 85歳	85歳 ～ 90歳	90歳 ～	計	平均年齢
男	0	0	1	0	3	4	0	8名	83.8歳
女	0	1	3	1	5	9	23	42名	88.9歳
計	0	1	4	1	8	13	23	50名	88.1歳

ウ ショートステイの利用状況

年間利用者数	1日平均利用者数	稼働率	平均介護度
6,467名	17.66名(定員20名)	88.3%	3.26

(2)施設設備の改善

- ・利用者の安全と職員の介護負担軽減のため「眠りSCAN」を5台購入
- ・利用者の生活リズムに合わせた入浴を実現するため、1階に個浴型介護浴槽を整備

(3)施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・介護の重度化に対応した個別的援助の強化
- ・施設が目指す「看取り介護」を家族と共に実践
- ・福祉教育への協力と人材確保に向けた実習受け入れ及び地域交流の促進
(交流事業)

実施内容	実施月日	人員
伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科3年生(Ⅳ期)施設実習	4月11日 ～8月1日 21日間	2名実習
黒住教上野中教会による草引き奉仕	5月19日	20名来園
岡波看護専門学校3年生施設実習	6月3日 ～6月7日 2日間	7名実習
岡波看護専門学校3年生施設実習	6月10日 ～6月14日 2日間	9名実習
曙保育園児との交流会	7月16日	40名来園
長田保育園児との交流会	8月7日	10名来園
伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科2年生(Ⅰ期)施設実習	8月20日 ～8月29日 8日間	3名実習
伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科2年生(Ⅱ期)施設実習	10月21日 ～12月10日 9日間	2名実習

伊賀市上野仏教会の方々による盂蘭盆法要	8月25日	8名来園
伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科3年生（Ⅵ期）施設実習	9月5日 ～12月12日 13日間	2名実習
シルバー人材センター窓ふき奉仕	10月29日	6名来園
よっといでまつりへ作品展示（書道）	11月19日	3名参加
伊賀市更生保護女性の会上野支部窓ふき奉仕	12月2日	23名来園
伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科2年生（Ⅲ期）施設実習	1月14日 ～3月5日 7日間	3名実習
計	14件	138名

(4) 職員の資質向上

老人福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修会のほか、梨ノ木職員研修会や各種委員会、検討チームによる勉強会、施設外の研修会に積極的に参加した。

（施設外研修）

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
上野商工会議所 新規学卒就職者激励会&セミナー	4月16日	3名
内田洋行 ITソリューションズ 介護現場の働き方改革支援セミナー	4月25日	2名
三重県公安委員会 安全運転管理者講習	6月4日	1名
全盲老連 福祉講演会並びに総会及び施設長研修会	6月5日～6日	1名
(株)PMC 外国人技能実習制度に係る生活指導員講習	6月14日	1名
三老施協 経営戦略トップセミナー	6月15日	1名
三重県 令和元年度介護サービス事業者等集団指導	6月18日	2名
三重県 三重県認知症介護実践者研修	6月19日他6日	1名
伊賀市消防本部 甲種防火管理新規講習	6月20日他1日	1名
三重県社協 平成31年度自主企画研修 「社会福祉施設における災害への備え～いま、災害が起きたら～」	6月24日	1名
三重県社協 コミュニケーション～指導の仕方・指導の受け方～	7月2日	1名
全老施協 令和元年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会(福井大会)	7月18日～19日	3名
伊賀市社会福祉法人連絡会 福祉防災計画(BCP)策定研修会	7月19日他1日	1名
(社福)弘仁会 特別養護老人ホーム美里ヒルズ実践報告会	7月28日	2名
三重県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会	8月3日他3日	2名
三重県社協 令和元年度喀痰吸引等研修(第二号研修)	8月1日 他9日	2名
関西環境開発センター 技能実習責任者講習	10月30日	1名
三重県 介護認定審査会委員現任者研修会	11月9日	1名
全老施協 第76回全国老人福祉施設大会(茨城大会)	11月20日～21日	1名
上野病院 連携型認知症疾患医療センター研修会	12月9日	2名
伊賀老施協 施設長会及び21世紀委員会合同研修会	12月10日	4名

日本介護福祉士会 令和元年度新カリキュラム対応介護実習指導研修	1月17日	2名
伊賀市地域包括支援センター 高齢者虐待防止研修会	1月31日	1名
計	23件	37名

<老人デイサービスセンターなしのき>

(1)利用者の状況

・利用者数

利用登録者	年間利用者数	1日当たり 平均利用者数
50名	4,783名	18.9名

・利用内容別状況

開所日数	通所介護	総合事業 (現行相当サービス)	入浴サービス	給食サービス
253日	4,288名	495名	4,497名	4,728名

(2)年間行事実施状況

月別	内 容
4月	なしのき開所22周年記念行事
5月	語り部塾、母の日特集(母の思い出、あなたは誰に『ありがとう』を伝えたいですか?)
6月	父の日特集(父の思い出、ひげそりゲーム)、いきいきサロン長田との交流会、子どもたちとの交流会(長田保育園)、岡波看護専門学校実習生受入
7月	七夕まつり(星に願いを)、大野木ゆうゆうクラブとの交流会
8月	夏祭り「小さな縁日」(クイズ、スイカ割ゲーム)、子どもたちとの交流会(花之木保育園)、夏休み福祉体験3名受入
9月	語り部塾、敬老週間(寸劇、合唱)、いきいきサロン長田との交流会(小物づくり[よっといでまつり作品])、健康相談(便秘のケアについて)
10月	栄養講座(さつまいも)、なしのき運動会(お手玉とばし、巻き巻きゲーム、玉入れ)
11月	往古梨まつり、長田地区文化祭、語り部塾
12月	忘年会「年忘れお楽しみ会」(利用者、職員の出し物)
1月	新春お祝い会(初詣、昔なつかしの遊び)、健康相談(肩こりについて)
2月	あったまろう会(ゲーム、我が家の鍋[回想法])
3月	壁面制作(春を迎えよう)
月例	誕生会、防災訓練、ほっとクラブ、健康体操(足踏み体操、梅干し体操等)

(3)職員の資質向上

- ・老人福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修会のほか、梨ノ木職員研修会、定例勉強会や施設外の研修会に積極的に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県 令和元年度介護保険サービス事業者等集団指導	6月18日	1名
伊賀市消防本部 甲種防火管理新規講習会	6月20日他1日	1名
三重県 介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	6月22日他4日	1名

いが移動送迎連絡会 運転協力者ステップアップ講習会	9月21日	1名
三重県 指定更新手続き説明会及び管理者研修	10月23日	1名
計	5件	5名

(4) 地域交流

地域交流を目的として、長田地区住民自治協議会の依頼により、本年度2回、休業日を利用して「いきいきサロン長田」を開催した。

<在宅介護支援センターなしのき>

(1) ケアプラン作成実施状況

ケアプラン契約者数 82名

内 容	年間利用人数
通所介護(含：認知症対応型)	358名
短期入所生活介護	191名
短期入所療養介護(介護老人保健施設)	34名
通所リハビリテーション	81名
訪問介護	207名
訪問看護(リハビリテーションを含む)	33名
訪問入浴	44名
訪問リハビリテーション	24名
福祉用具貸付	349名
地域密着型通所介護	74名

(2) 相談件数

区分	年間相談人数					相談実人数	在宅サービス 適用者実人数
	訪問相談	来園相談	電話相談	文書	計		
人数	0名	2名	7名	0名	9名	9名	9名

(3) 各種懇談会等情報交換の実施状況

実施月日	内 容
令和2年1月28日	大野木公民館において、介護予防教室(大野木ゆうゆうクラブ)

(4) 職員の資質向上

老人福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修会、梨ノ木職員研修会及び施設外の研修会に積極的に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県介護支援専門員協会 平成31年度4月伊賀支部研修会	4月12日	1名
伊賀市 介護サービス事業者等集団指導	6月11日他2件	3名
三重県 令和元年度介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	6月22日他4日	1名

伊賀市 介護保険住宅改修受領委任講習会	6月25日	1名
三重県介護支援専門員協会 令和元年度7月伊賀支部研修会	7月6日	1名
三重県介護支援専門員協会 令和元年度12月伊賀支部研修会	12月7日	1名
伊賀市地域包括支援センター 第3回市内居宅介護支援事業所向け研修会	2月21日	1名
計	7件	9名

4 梨丘園(りきゅうえん)について

梨丘園は、「自宅にいるような安らぎとその人らしい生活」を運営の基本姿勢とし、障害のある方々の自己決定に基づき、充実した生活を送ることができるよう支援に努めた。また、高齢化・重度化している利用者の身体機能の維持向上を図るため、理学療法士や言語聴覚士の訓練を得ながら、個々のプランに沿ったきめ細かい介護支援サービスを提供した。とりわけ今年度は個々の支援の充実を図るため、業務の改善等にも努め、生活の質を高めると共に職員の意識改革にも力を入れた。さらに、隣接する施設と合同での創作・文化活動や外出行事により地域交流を深めることで生きがいと潤いのある生活の実現を図った。

変動する福祉情勢の中で、QOL と自立心の向上を目指し、新たなサービス体系に基づく利用者様々の様々なニーズへの対応と共に、洞察力、先見力を発揮することのできる職員を育成するため、各種研修会に積極的に参加した。

併設する「指定特定相談支援事業所 梨丘」、「指定障害児相談支援事業所 ヴェルデ」では、児童から成人まで幅広いライフステージの方々の福祉に関する諸問題について、その相談に応じ、必要な情報提供やサービスの利用支援を行なうほか、権利擁護のための援助を行なった。また、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むために必要な障害福祉サービスが、適切かつ効率的に利用できるよう計画相談支援を提供した。

(1)利用者の状況

ア 年齢構成

(令和2年3月31日現在)

以上 〈 未満	20歳 〈 25歳	25歳 〈 30歳	30歳 〈 35歳	35歳 〈 40歳	40歳 〈 45歳	45歳 〈 50歳	50歳 〈 55歳	55歳 〈 60歳	60歳 〈 65歳	65歳 〈 70歳	70歳 〈 75歳	合計
男	1	0	0	2	1	1	0	2	2	2	1	12名
女	0	0	0	0	1	0	0	0	3	3	1	8名
計	1	0	0	2	2	1	0	2	5	5	2	20名

[※定員 20名]

性別	最年長	最年少	平均年齢
男	72歳7か月	23歳1か月	53.96歳
女	76歳2か月	42歳7か月	63.95歳
			58.95歳

イ 身体障害状況

・障害支援区分

区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
1名	2名	6名	11名	20名	5.35

(2) 年間行事実施状況

月別	内 容
4月	花まつり、お花見ドライブ、トーク DE りきゅう、おひさまカフェ、どっかいこか〜ピクニック〜
5月	第18回開園記念日(ゲーム大会)、ハンドメイドりきゅう(パンケーキ・ギョウザ)
6月	リラクゼーション(足浴・手浴)、どっかいこか〜市内観光・カフェ〜
7月	栄養講座、どっかいこか〜食事コース〜
8月	サマープチフェスタ
9月	どっかいこか〜電車コース〜
10月	トーク DE りきゅう、栄養講座、どっかいこか〜日帰り旅行〜、おひさまカフェ
11月	第19回往古梨まつり、どっかいこか〜ショッピングコース〜、大掃除(居室)
12月	年末お楽しみ会、大掃除(居室)
1月	新年祝賀会、初笑い会
2月	節分、ハンドメイドりきゅう(スイートポテト・いももち)、リラクゼーション(足浴・手浴)
3月	栄養講座、リラクゼーション(足浴・手浴)、トーク DE りきゅう
月例	リクエスト外出、カフェりきゅう、防災訓練

* ボランティアとの協働による俳句クラブ、書道クラブ、ふれあいの時等の諸活動を推進した。

* 園芸活動や、グループ活動としてリハビリレクリエーション(散歩・ゲーム・体操・球技・創作活動等)を実施した。

(3) ショートステイの利用状況

年間利用者数	1日当たり 平均利用者数
572名	1.56名(定員2名)

(4) 施設整備の改善

- ・特殊浴槽設備、居室エアコン、食器消毒保管庫、厨房換気システム等を入替整備

(5) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修会及び梨ノ木職員研修会のほか、施設外の研修会に積極的に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
内田洋行 ITソリューションズ 介護現場の働き方改革支援セミナー	4月25日	1名
三重県 障がい福祉サービス事業所職員等基礎研修	5月12日	1名
三重県 三重県相談支援従事者初任者研修	6月25日他1日	1名
全盲老連 新任ケアワーカー研修会	6月25日他3日	1名
京滋奈三重サブブロック QOL委員会	6月28日 他3件	4名
全盲老連 第38回新任ケアワーカー研修会	6月25日～28日	1名
全国社会福祉法人経営者協議会 社会福祉法人主任/係長講座	7月9日～10日	1名
三重県 「みえ福祉第三者評価」自己評価リーダー研修会	8月5日	1名

三重県社協 令和元年度喀痰吸引等研修(第二号研修)	8月10日 他9日	1名
三重県 福祉介護職員等特定処遇改善加算説明会	8月16日	1名
三重県 三重県高次脳機能障害者地域支援セミナー	9月1日	1名
三重県 三重県サービス管理責任者更新研修	9月20日他1件	2名
近障協 奈良・三重支部サービス管理責任者連絡会	9月27日他1日	1名
三重県 三重県サービス管理責任者基礎研修	11月26日	1名
近障協 第30回研究大会(兵庫大会)	11月28日～29日	2名
全社協 第9回職員スキルアップ研修会	12月3日～4日	1名
全社協 令和元年度障害者虐待防止リーダー職員研修会	1月9日～10日	1名
三重県 三重県強度行動障害支援者養成研修	1月15日他1日	1名
三重県身障協 総会・研修会	2月7日	1名
アメニティフォーラム実行委員会	2月7日～9日	1名
維雅幸育会 施設外就労「M.I.Eモデル」フォーラム	2月16日	1名
計	25件	26名

《 指定特定相談支援事業所梨丘 》

(1)利用者数(年間相談件数)

区分	訪問相談	来所相談	同行	電話相談	メール相談	個別支援 会議	関係機関
件数	445件	34件	13件	296件	電子メール 6件 郵送 56件	11件 サービス 担当者会議 112件	756件

・相談内容別件数

相談内容	件数
福祉サービスの利用等に関する支援	1,475件
健康・医療に関する支援	1,218件
不安の解消・情緒安定に関する支援	1,097件
家族関係・人間関係に関する支援	608件
家計・経済に関する支援	227件
生活技術に関する支援	795件
就労に関する支援	221件
社会参加・余暇活動に関する支援	423件
権利擁護に関する支援	41件
その他	25件
計	6,130件

(2)相談支援計画書作成実施状況等

- ア 本年度契約者数 93名
- イ 利用支援計画作成数 83件
- ウ 継続支援計画作成数 198件

(3) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修及び梨ノ木職員研修会のほか、施設外の研修会に積極的に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県 医療的ケア児・者コーディネーター養成研修	6月14日他3日	1名
三重県 三重県相談支援従事者初任者研修	6月25日他5日	1名
三重県社協 令和元年度三重県介護支援専門員実務未経験者更新研修	9月11日他9日	1名
三重県 三重県サービス管理責任者更新研修	11月13日	1名
三重県 令和元年度精神科医療と福祉の連携研修会	12月9日	1名
アメニティフォーラム実行委員会	2月7日～9日	1名
計	6件	6名

《 指定障害児相談支援事業所ヴェルデ 》

(1) 利用者数(年間相談件数)

区分	訪問相談	来所相談	同行	電話相談	メール相談	個別支援 会議	関係機関
件数	83件	161件	3件	10件	電子メール 0件 郵送 0件	0件 サービス 担当者会議 94件	13件

・相談内容別件数

相談内容	件数
福祉サービスの利用等に関する支援	484件
障害や病状の理解に関する支援	7件
保育・教育に関する支援	7件
不安の解消・情緒安定に関する支援	4件
家族関係・人間関係に関する支援	6件
社会参加・余暇活動に関する支援	1件
計	509件

(2) 相談支援計画書作成実施状況等

- ア 本年度契約者数 42名
- イ 利用支援計画作成数 55件
- ウ 継続支援計画作成数 66件

(3) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、法人内研修及び梨ノ木職員研修会に参加した。

5 上野点字図書館について

利用者が地域にある身近な施設で点字図書や録音図書の貸出及び返却手続きができるよう、公共図書館を窓口にした図書の取次ぎサービスを開始した。伊賀市上野図書館でのサービスを開始

するにあたっては、サービスの流れや業務分担を明確にし、市のネットワーク等を通じて障害福祉サービス事業所への周知を図った。

また、令和元年(2019)6月の読書バリアフリー法の成立を受けて、録音図書が視覚障害だけでなく、発達障害、肢体不自由等の障害により読書が困難な場合に利用できることを広く一般市民へ知らせる機会として、公共図書館を会場にした企画「点字図書館資料の展示会及び録音図書の読書体験会」を開催した。

さらには、誰もが住みやすい街づくりを目指して、行政等から依頼を受けた点訳業務に取り組んだほか、夏休みを利用した点字教室や小学校での福祉啓発授業を行なった。

(1) 図書の整備等

サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)と連動したWeb図書館システムを活用することにより、所蔵資料の精度の高い書誌管理と迅速な資料の提供に努めた。

ア 蔵書の状況 (令和2年3月31日現在)

区 分	タイトル数	分冊数(分巻数)
点字図書	5,068	15,917冊
録音図書	11,159	23,083巻

イ 資料の利用状況

資料の形態	年間延べ貸出利用数	データダウンロード利用数
点 字	1,361人	921件
録 音	9,847人	9,338件

ウ 機関誌の発行

- ・「図書館通信」(点字版・録音版・大活字版) 隔月発刊(偶数月) 発行部数 164部
主な送付先 個人利用者、視覚障害者情報提供施設、公共図書館等

エ 逐次刊行物の製作、発行

- ・「中日春秋」(中日新聞コラム/録音版) 2週間毎に発刊 年26回
- ・「広報いが市」(伊賀市/点字版・録音版) 年23回
- ・「伊賀市議会だより」(伊賀市/録音版) 年4回
- ・「あいしあおう」(伊賀市社会福祉協議会/録音版) 年11回
- ・「墨字図書案内」(録音版) 隔月発刊(奇数月) 年6回

オ 啓発業務

<点字図書館資料の展示会>

伊賀市上野図書館を会場に点字図書・録音図書等の当館所蔵資料を展示
12月7日(土)～12月26日(木)

<録音図書の読書体験会>

録音図書専用再生機を使つての読書体験
12月10日(火)～12月11日(水) 来場者15名

<点字教室の開催>

伊賀市内の小学4・5・6年生の児童及び保護者を対象とした点字教室
8月1日(木) 参加者14名

<点字名刺の作成>

名刺への点字印刷 4件

<機器等の貸出>

録音図書再生機の貸出 21台

点字器の貸出

成和西小学校 17台 10月24日～11月15日

点字資料の貸出

青山小学校 6冊 8月19日～12月25日
 放課後等デイサービス事業所ヴェルデ ドゥ
 10冊 3月12日～3月31日

<点字教室及び視覚障害者福祉啓発のための講師派遣>

団体名	実施月日	児童数
青山小学校4年生	9月11日	80名
新居小学校4年生	10月28日	21名
神戸小学校4年生	10月29日	11名

カ 法人内施設との連携業務

- ・かしの木ひろば 「ときめきニュース」の点字版製作 年12回 (62頁)
- ・梨ノ木園 給食献立表等の点字印刷 年57回 (660頁)
- ・梨ノ木園 利用者への対面音訳 年21回 (141名)
- ・梨ノ木園 多目的室への図書整備 点字図書19タイトル63冊
録音図書41タイトル41巻

(2) ボランティアの養成状況等

新規点訳及び音訳ボランティアの養成を図るために講習会を実施するとともに、活動中のボランティアを対象とした研修会を行ない多様な墨字資料に対応できる人材の確保に努めた。

ア ボランティア数

グループ名	会員数	計
上野点訳奉仕グループ あい	8名	点訳ボランティア数 19名
名張点訳グループ あかり	11名	
上野音訳グループ しのび	18名	音訳ボランティア数 41名
名張音訳グループ こだま	17名	
音訳アフター研修会修了生	6名	

イ 養成業務

<講習会>

- ・点訳ボランティア養成アフター研修会(通信) 延べ受講者数 169名
- ・音訳ボランティア養成講習会 10回 延べ受講者数 71名
- ・点訳ボランティア定例会 12回 延べ出席者数 75名
- ・音訳ボランティア定例会 20回 延べ出席者数 227名
- ・点訳・音訳ボランティア合同研修会 参加者 32名

実施日：10月24日(木)

研修内容：講演会・バリアフリー上映会

「京都リップル」 深田美知子氏

(3) 委託事業その他関係機関からの依頼業務

ア 三重県

- ・第25回参議院議員通常選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作及び「投票用紙用点字シール」の製作
- ・第105回全国図書館大会三重大会に係る要綱等資料の点字版製作及び点字データの提供

イ 伊賀市

- ・伊賀市障がい者相談員連絡会開催に係る会議資料等の点字版製作
- ・三重県障害者相談員等研修会開催案内の点字版製作
- ・「広報いが市」点字版・録音版製作及び発送、ホームページ掲載用 MP3 データの提供
- ・「伊賀市議会だより」録音版製作及び発送
- ・点訳、音訳奉仕員養成事業（点訳・音訳ボランティア養成講習会の開催等）

ウ その他

- ・第 10 回伊賀市障がい者福祉大会プログラムの点字版製作
- ・第 14 回伊賀市障がい者スポーツ大会プログラムの点字版製作
- ・伊賀市視覚障害者福祉会役員会及び総会等資料の点字版製作
- ・町長選挙及び町議会議員選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作（東員町）

(4)職員の研修状況

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
中部ブロック館長会議	7 月 25 日～26 日	1 名
全視情協通常総会並びに施設・団体長研修会	6 月 14 日	1 名
サピエ研修会	7 月 11 日～12 日	1 名
第 49 回朗読録音奉仕者感謝の集い	9 月 12 日	1 名
第 45 回全国視覚障害者情報提供施設大会	10 月 3 日～4 日	2 名
中部ブロック音訳担当職員研修会	10 月 31 日 ～11 月 1 日	2 名
第 49 回名張市社会福祉大会	11 月 2 日	1 名
中部ブロック点訳担当職員研修会	11 月 6 日～7 日	1 名
中部ブロックサービス担当職員研修会	11 月 6 日～7 日	1 名
第 38 回音訳指導員講習会	11 月 27 日～29 日	1 名
合 計	10 件	12 名

6 伊賀市盲人ホームについて

盲人ホームの設置目的は、三療師(あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師)資格を有する視覚障害者に自身での開業又は就業までの期間において、施設の利用を認めると共に技術指導を行ない、利用者の自立更生を図ることである。

当ホームが昭和 35 年(1960)から長期にわたり三療を志す視覚障害者の就業研修に対する要望を受け入れる施設として機能してきましたが、このことは伊賀市内における視覚障害者施策の一環として大きな意味を持つものである。視覚に障害のある方々にとって就業の道は狭く、その機会も少ない現状から見ると、三療師資格を有することの意義や、三重県で唯一の研修施設である伊賀市盲人ホームの存在意義は大きく、本年度も次のような事業を行なった。

(1)利用患者の状況

盲人ホームは運営上の制限があるため、利用患者の増加を図ることには難しい課題があるが、例年通りの利用患者数を確保していたが、今年の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、本年 2 月から 3 月の患者数は前年比として 6 割減となった。

(2)公益的な活動

地域の方々への三療の正しい知識の普及と盲人ホームの広報を目的として、鍼療師の資格を持つ健康体操指導者による健康講座を定期的に継続して開催した。

(3) 視覚障害者に対する活動その他

盲養護老人ホーム梨ノ木園及び伊賀市視覚障害者福祉会と、様々な行事を通して連携を深めると共に、地域の視覚障害者の拠点としての施設運営に努めた。また、老人デイサービスセンターなしのきと協働し、盲人ホームの施療師が定期的に同施設を訪問し、利用者の方々にマッサージ等の施療をしながら技術の向上を図った。

7 かしの木ひろばについて

障害者自立支援法が施行された平成 18 年(2006)以降は、生活介護事業所として事業を進めてきた。利用者が 65 歳に到達すると介護保険サービスへ移行することや、家族の介護困難により、施設入所を望む利用者が増え、通所施設利用者は減少傾向となった。また、居宅介護支援及び訪問介護支援事業では、介護保険に移行した方への訪問介護支援を引き続き行なうと共に、障害児者の社会参加と生きがいのある生活の実現に向けて事業を展開し、通所と訪問の連携により在宅障害者が安定的な生活を過ごせるように支援することができた。本年度も、利用者の様々なニーズに対応するため、障害者団体、関係機関、地域住民、家族等の連携を密にすると共に、職員一人ひとりの専門性や技術の向上に努めた。

(1) 生活介護事業 定員 20 名

障害支援区分 3 から 6(50 歳以上は区分 2 以上)の方を対象として、個々の心身の状況に応じた個別支援計画に基づき、介護サービスの提供と、創作的活動や軽作業及び感覚統合的運動等の日中活動を延べ 4,778 名に行なった。特に利用者の特性上、密接な関わりが必要な方に対しては個別対応し、入浴サービスや外出活動等、生活の質を高める援助を行なった。加えて、当事業所が伊賀市より受託している日中一時支援事業において、特別支援学校伊賀つばさ学園高等部の生徒を放課後や長期休暇中に受け入れた。併せて、地域や他事業所の行事にも積極的に参加する等、利用者の生活の質の向上に向けた支援を行なった。

ア 利用者の状況

・年齢構成

サービス	年齢	20 歳	30 歳	40 歳	50 歳	60 歳	合計
	19 歳	29 歳	39 歳	49 歳	59 歳		
生活介護	0	6	5	13	4	8	36 名

・障害別内訳

障害名	男	女	合計
脳性マヒ	2(2)	2(1)	4(3)名
脊損、頸損	1	0	1名
脳血管障害	2	0	2名
脳挫傷(高次脳機能障害)	0	1	1名
視覚・聴覚障害(重複)	2(1)	0	2(1)名
知的障害	9	3	12名
その他	7(3)	7(5)	14(8)名
合計	23(6)	13(6)	36(12)名

※ ()は、知的障害との重複数

・障害支援区分

		区分なし	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
生活介護	身障	0	1	3	3	5	12	24名
	知的	0	2	3	3	4	0	12名
合計	合計	0	3	6	6	9	12	36名

イ 年間利用状況

開設日数	利用者数		利用平均		送迎サービス	
	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時
265日	4,778	67	18.03	0.25	6,785回	23回

ウ 作業賃金の状況

	支払工賃	総作業時間	1時間の賃金
年間	404,910円	3,424時間	
1か月の平均	33,742円	285時間	118円

エ 外部講師による余暇活動等

- ①余暇活動の実施状況 お茶の会 1回/月
 ②機能訓練等の実施状況 音楽療法 1回/月

オ 年間行事実施状況

月別	内 容
5月	育成園まつり
7月	ひまわりコンサート
8月	夏まつり
10月	バス旅行（セントレア中部国際空港）
11月	障がい者スポーツ大会・育成園イルミネーション
12月	クリスマス会
1月	初詣 新年会
2月	三山ひろしコンサート
月例	散歩 MY外出（外食・ピクニック・カラオケ・ショッピング等）

(2) 居宅介護支援及び訪問介護支援事業

障害者総合支援法や介護保険の利用者を対象とし「地域で暮らしたい」「自分らしく生活を送りたい」という利用者の思いを大切に、家族や他職種と連携を取りながら、現在約82世帯を訪問して次のような支援を行なっている。

主な支援内容

身体介護(通院介助)、家事援助(生活支援)、移動支援、福祉有償運送、保険外サービス、視覚障害者に対する同行援護(福祉有償運送との一元利用による有効な外出支援の提供)

ア. 利用者の状況

年齢構成

対象者 \ 年齢	19歳	20歳 ～ 29歳	30歳 ～ 39歳	40歳 ～ 49歳	50歳 ～ 59歳	60歳 ～ 69歳	70歳 ～ 79歳	80歳 ～ 89歳	90歳	合計
障害者支援	1	7	15	14	8	15	6	6	0	72名
高齢者支援	0	0	0	0	0	5	8	2	2	17名
合計	1	7	15	14	8	20	14	8	2	89名

障害別・介護認定別の状況

障害名・介護認定名	男	女	合計
身体障害者手帳	20	25	45名
療育手帳	11	22	33名
精神福祉手帳	2	2	4名
介護保険(要介護)	5	11	16名
(要支援)	4	3	7名
合計	42	63	105名

※重複あり

イ. 年間事業状況

居宅介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	身体介護	26	2,741	2,232
	家事援助	8	265	216
	通院(身体介護有)	16	325	475
	通院(身体介護無)	4	36	99
	重度訪問	1	96	33
合計		55	3,463	3,055

行動援護・同行援護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	同行援護	14	413	809

地域生活支援

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	移動支援(身体介護有)	27	796	1,390
	移動支援(身体介護無)	12	315	558
合計		39	1,111	1,948

訪問介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	身体介護	3	757	613.5
	生活援助	2	181	170
	身体生活	4	229	265.5
	乗降介助	6	447	
	総合事業 現行	0	0	0
	総合事業 緩和	6	284	284
合計		21	1,898	1,333

※ 重複支援あり

ウ. 福祉有償運送利用状況

利用者の内訳					合計
身体障害者	要介護認定者	要支援認定者	精神障害者	知的障害者	
2,217件	36件	10件	22件	1,244件	3,529件

(3) 地域交流事業

当施設を活用して、障害者の俳句の会、身体障害者団体による会議や研修等が定期的に行なわれた。また、福祉教育への協力と地域との交流を促進するために、岡波看護専門学校生の在宅看護実習、伊賀白鳳高校ヒューマンサービス科の生徒の実習（通所・ヘルパー共）、夏休みの小学生の福祉体験等を積極的に受け入れた。更に、寺町いきいきサロンの皆様と交流を深め、プランターの花植えや年末の窓拭き等を共に行なった。

<会議、研修会等の開催状況>

内 容	回数
伊賀市聴覚障害者協会例会等	9回
伊賀市視覚障害者福祉会総会、役員会	5回
手話サークル	9回
障害者の俳句の会	11回
寺町いきいきサロン	9回
夏休み福祉体験	2回
福祉実習（岡波看護専門学校 18名）	5回
〃（白鳳高校 2年生 4名・3年生 2名）	54回
計	104回

(4) 職員の資質向上

職員としての意識向上を図るため、法人内で実施する各種研修会に参加した。また、当施設の虐待防止委員会においては、梨丘園と共に外部講師による事例研修を年間6回実施した。また障害者福祉制度について、専門的知識、技術の向上を図るため、施設外研修にも積極的に参加した。更に、福祉有償運送や利用者送迎運転手業務に備え、ステップアップ研修や運転実施研修を全職員で行なうことで、安全運転の意識の向上に努めた。

8 梨ノ木診療所について

梨ノ木診療所は、診察時間の制約がある中、従前より予防医学の観点から、健康診断・生活習慣病検診やインフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチン接種等を実施することで、地域医療及び施設利用者等の健康管理に努めた。

通所リハビリテーション事業では、在宅機能を保持できるよう個々の利用者に応じたりハビリ訓練をマンツーマンで提供するリハビリテーションを実施した。

平成24年度より地域貢献事業として、理学療法士の指導のもと「なしのき健康講座」を開催し、地域の皆様に健康意識の向上及び身体機能の保持を目的として健康維持の推進に努めた。更に地域の皆様の憩いの場としての役割も担うことができている。

隣接する施設（梨ノ木園、第二梨ノ木園、梨丘園等）を利用する方々には、日々の健康管理のために回診等を定期的に行ない、様々な医療相談に対応した。また、施設利用者の終末期においては、ご家族・施設職員と共に看取り医療を行なった。

(1) 予防医療の充実

ワクチン接種 933名(前年 1067名)
一般健康診断 346名(前年 383名)

(2) 地域貢献事業

なしのき健康講座 34回 年間参加者数 773名(前年 884名)

(3) 職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、法人内研修及び梨ノ木職員研修会に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参 加 人 員
伊賀・名賀医師会地区社会保険集団指導	8月1日	2名